

問い作りの授業実践と考察 —高校2年生の現代文と古典での実践を中心に—

広島大学附属中・高等学校 重永 和馬

キーワード：問いづくり，能動的学習，学習者研究

はじめに

本稿は、2019年度に広島大学附属中・高等学校の高校二年生で実践した現代文Bと古典Bの授業の報告、分析と考察を中心にしたものである。2019年度は、初読後のはじめの問い作りの学習活動に注力した一年であった。

私はこれまで、生徒の感想や問いをいかした授業をしようと心がけてきた。また、そのような授業を研究授業等で行うことが多く、検討会では多くのご意見をいただいた。本稿では、検討会での質疑応答もふまえ、問いをいかした授業をするにあたって考えるべき論点と今後の展望についても述べた。

1. 育成をめざす生徒像

私は、思考力等を育成するための言語活動が重視された2000年代後半から、生徒の能動的な学習活動を重視した授業作りに努めてきた。このことは、今でも継続して行っている。能動的な学習活動を通じて、生徒が様々な力をつけていると見とっているからである。さらに、主体的な学習や自律的な学習の基本になるのは、能動的な学習だと考えているからでもある。まずは実際に動くことが生徒の主体化にもつながるし、やがては自分を俯瞰的にとらえて、コントロールすることにもつながる。本校のスーパーサイエンスハイスクール活動で重視される力（注1）や、国語科が育成を目指している生徒像（注2）の基本となるのも、やはり生徒の能動的な学習活動だと考えている。

私が授業を通じて育成を目指している生徒像は、自問自答し、能動的に学習に取り組む生徒である。さらに、他の生徒と感想や問いを共有することで自分の考えを広げられる生徒である。そして、生徒を能動的にする契機になるものとして、感想を書く活動、問いを作る活動をとらえている。

2. 生徒の感想や問いを重視する理由

生徒が感想を書いたり問いを作ったりする活動を

重視するのは、次のような理由からである。

①対象に働きかける力の育成

教材文に感想や問いを持つこと、それそのものが学力の基本だと考える。対象と関係を築く力である。特に問いを作る力は、知識基盤社会、生涯学習社会において学び続けるために必要な力である。

②能動的な学習の実現

授業で扱う教材文は多くの場合、生徒にとって初めてのものである。まずは教材文と生徒の関係を築くことが必要になる。感想や問いを書くことは、教材文と自分の関係を築くこと、さらには自分にも関係あることとして教材文の内容を引き受けることにつながる。このことは、能動的な学習の実現につながる。

もちろん感想や問いをもたなくとも学習はできる。しかし、受動的な漠然とした学びになりがちである。感想や問いを持つことが、まずは能動的な学びの態度につながり、さらには主体的・自律的な学びにつながる。

③読む活動や思考の活性化の実現

感想や問いを持つことは、読む活動や思考の活性化の契機になる。感想や問いのない状態での読みは、漠然とした読みや思考につながりがちである。感想や問いを持つことが、書かれていることへの理解にとどまらず、書かれていない文脈を想像することや、文章をもとに発展的に考えることにつながる。さらに、他の生徒の感想や問いを知ることは、教材文の読みや自身の考えを広げることにつながる。

④指導者の学習者研究の深まり

指導者が生徒の感想や問いを読み、分析することで、学習者研究を深めることができる。教材研究の第一段階は教材文を指導者が読み、参考資料等を用いて研究することである。その次の段階は、生徒が教材文をどのように読むのか、どのような活動を行いたいと考えるのかについて、指導者が想像することである。この想像に生徒の感想や問いは有用である。感想や問いを元に教材文を読み直したり、授業

展開を改めたりすることで、生徒の活動、読みや思考を位置づけた授業構想を練ることができる。

3. はじめの問い作りの実践

本稿では 2019 年度の高校二年生の実践について報告する（注 3）。2019 年度、現代文をニクラス、古典を一クラス担当した。この年は、現代文も古典も、はじめの問いづくりに注力した年である（注 4）。

（1）単元展開について

現代文も古典も単元展開は同様である。

導入	・全文を指導者が音読する【指導者】
	・はじめの問いを作って、ワークシート 1 に書く【生徒の個人作業】。
	・4, 5 人グループで回し読みする。その後、グループで一つの問いを作る、あるいは選ぶ【生徒のグループ作業】。
	・各グループの作った問いを一覧にして、指導者が配布する（ワークシート 2）。その後、問いの答えを書く【生徒の個人作業】。
展開	・場面ごと、段落ごとに読んでいながら、生徒の作った問いを解決する【指導者と生徒】。解決の際は、ワークシート 2 の既にも書いている答えに、上書きさせる【生徒の個人作業】。その後、グループで答えを読みあう【生徒のグループ作業】。2, 3 人指名し、答えを発表させる。
終結	・まとめの問いを作る、まとめの感想を書くなどの場合もあった【生徒の個人・グループ作業】。

（2）ワークシートについて

導入段階で配布するワークシート 1 を次に示す。

「課題づくりの観点」として、教材文の注目してほしい点を示している。また、「シンプルな一文の疑問形で問いを作る」というルールで問い作りを行っ

た。

（3）生徒のはじめの問いについて

生徒の作ったはじめの問いを、①文学教材、②説明的文章教材、③古文教材、④漢文教材に分けて示す。また、問いを①文章の内容・意味の面、②文章の表現・構成の面、③文章の作者・筆者の面、④文章から発展しているものの4つに分類した。この4分類は 2019 年度の実践では生徒に示していない。実践をする中で、私が分類方法として用いることができると考えたものである。

ここに載せているものは、一覧として生徒に配ったワークシート 2 をもとにしている。生徒の作ったはじめの問いそのままではなく、疑問点がわかりやすいように、私が文言に手を加えている。なお、現代文の問いの数が多いのは、ニクラス分あるからである。古文と漢文は、二教材同時に音読した後に問い作りを行うなどの場合がある。そのため問いの数が少なくなりがちである。また、問いの重複をさけずに載せている。

【文学教材（詩歌を含む）】

教材名	分類	生徒の作ったはじめの問い
夏の花	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・主人公が乱れる様子がないのはなぜか？ ・「今、ふと己が生きていることと、その意味が、はっと私を弾いた」とは具体的にどういうことか？
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人の体験の羅列になっているのはなぜか？ ・冒頭に墓のシーンを持ってきたのはなぜか？ ・Nの話で終わるのはなぜか？ ・Nのくだりって必要なのか？ ・最後にNの話が付け加えられているのはなぜか？ ・カタカナの方がふさわしいと考えたのはなぜか？ ・なぜ詩のところがカタカナ表記なのか？ ・カタカナで書きなぐるのがふさわしいのはなぜか？ ・Nの妻がどうなったのかを書かなかったのはなぜか？ ・Nの話をする意図は何か？

	作者	・なぜ作者は作品名を「夏の花」にしたのか？
	発展	・Nとは誰か？ ・Nは誰？
山月記	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・李徴が虎になったのはなぜか？ ・闇の中から李徴を呼んでいたのはだれか？ ・袁傜と話す間、李徴が虎にならないのはなぜか？ ・李徴は虎になりできれば幸せになると、本当に考えているのか？ ・袁傜が感じた李徴の詩に欠けるところとは、なにか？ ・最後の一行が虎を見たとき、虎を恐れたか？ ・闇の中から李徴を呼んでいたのは誰か？ ・声の正体は何か？ ・袁傜が超自然の怪異（醜悪な姿の李徴）を怪しまずに受け入れたのはなぜか？ ・袁傜が感じた李徴の詩に欠けるところとは、なにか？
	表現	・心が虎になることを「酔う」と表現しているのはなぜか？
	作者	<ul style="list-style-type: none"> ・作者が李徴を虎にしたのはなぜか？ ・作者が虎という動物を選んだのはなぜか？ ・作者が「山月記」（あるいは、李徴の人生）を通じて読者に考えてほしかったことは何？
	発展	・長年読み継がれてきた「山月記」の魅力はどの点にあるか？
ひよこの眼	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・私（亜紀）が幹生を見詰めていたのはなぜか？ ・黙祷中に私が目を開けていたのはなぜか？ ・幹生と一緒に帰ろうと誘ったのはなぜか？ ・幹生が生きようとしなかったのはなぜか？ ・幹生はなぜ、どのように亡くなったのか？ ・幹生のひよこの目は、父親とともに死ぬ運命にあることを悟った上での目だったのか？ ・「人生に対して礼儀正しい」とはどういうことか？ ・幹生の目を見たとき、ひよこの目だと思いつけなかったのはなぜか？ ・「私たちよりもずっと先をいってるみたい」は何を暗示しているのか？ ・「私がそばにいないことが～違うのだ」とはどういうことか？ ・「恐ろしさのあまり恋をしてしまった」と

		はどういうことか？ ・生ける目とは？
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・生を軽く扱う妹の存在は何かを象徴しているのか？ ・ひよこの目が死を暗示するなら、対比的な生の暗示は何か？
	作者	特になし。
	発展	<ul style="list-style-type: none"> ・死は救済になるのか？ ・異性と手をつなぐってどんな感じなんだろう？
こころ	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・Kが自殺したのは、なぜか？ ・Kがこのタイミングで自殺したのはなぜか？ ・Kが自殺したときに襖が開いていたのは、なぜか？ ・私がわざと人目につくようにKの遺書を読んだのは、なぜか？ ・Kが遺書の中でお嬢さんの話をしなかったのはなぜか？ ・Kはどのくらい私を信用していたのか？ ・私がKの死に顔を見ようとして、すぐ放したのはなぜか？ ・Kが私にお嬢さんへの好意を打ち明けたのはなぜか？ ・Kが「もう寝たのか」と訊くのはなぜか？ ・Kが自殺したのはなぜか？ ・Kは「もっと早くに死ぬべきだった」というのはなぜか？
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・Kの自殺が前置きなく突然書かれているのはなぜか？ ・私が作品中で自分自身を保身的な態度で描いているのはなぜか？ ・作品中での襖はどのようなものか？
	作者	<ul style="list-style-type: none"> ・私が作者に手紙（遺書）を送ったのはなぜか？ ・作者がこの物語を通じて伝えたいこと（テーマ）はなにか？
	発展	・長い間この作品が読み継がれているのはなぜか？
永訣の朝	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「ふたわんのゆき」（二椀）と「さいごのひとわん」（一椀）は、どちらが正しいのか？ ・妹が最期に雪を食べようと思ったのはなぜか？

	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・「あめゆじゅ～」を4回も繰り返すのはなぜか？ ・「Ora Orade～」はなぜローマ字なのか？ ・なぜいきなりローマ字？ ・雪・空が表現（象徴）しているものはなにか？ ・雪の表現が「びちよびちよ」→「美しい」と振り幅が大きいのはなぜか？ ・「あめゆじゅとてちけんじや」が何度もでてくるのはなぜか？（繰り返す効果は何か？） ・「Ora Orade～」がローマ字表記なのはなぜか？ ・（ ）の中に、方言やローマ字などが用いられているのはなぜか？ ・（ ）が一字下げなのはなぜか？ ・「Ora Orade～」の（ ）が下げられていないのはなぜか？ ・雪に関する表現が変化するのはなぜか？ ・雪に関する表現がマイナスからプラスへ変化するのはなぜか？ ・雪に関する表現が美しくなるのはなぜか？ ・色や明るさに関する表現が多いのはなぜか？
	作者	<ul style="list-style-type: none"> ・「アイスクリーム」が没になったのはなぜか？ ・妹の死はつらいことなのに、宮沢賢治がこの詩を出版したのはなぜか？
	発展	特になし。

【説明的文章教材】

教材名	分類	生徒の作ったはじめの問い
ロゴスと言葉	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ロゴスによって分類される前の「指向対象」はどのような存在なのか？ ・「象徴の森のシュミラークル」とは何？ ・本当に「名は体を表す」のか？ ・ロゴスと言葉の関係はどのようなものか？ ・最後の一節、「water」も実体ではなく、「water/non-water」であるとはどういうことか？ ・メルロ＝ポンティの言葉はどういうことか？ ・本能図式が言葉による再編成を強いられる

		<p>とはどういうことか？</p> <ul style="list-style-type: none"> ・非言語的分節と言語的文節はどう違うのか？ ・言語的分節が優位とされるのはなぜか？ ・「差異化」とは二分することなのか？ ・「非自然的な画定」とは何か？ ・「実質的なもろもろの差異が構造的同一性でくくられることによって存在を開始する」とはどういうことか？ ・一次的命名作用と二次的命名作用の違いは何か？
	表現	・エジプト・電車・ヘレンケラーの事例は何を説明するためのもの？
	作者	特になし。
	発展	<ul style="list-style-type: none"> ・国ごとに言葉の分節が異なるのはなぜか？ ・名付けされていない事象を私たちはどう認識しているのか？ ・言語にはその国の人々の感性の豊かさがあるわけではないか？ ・新しく名付けてカテゴリー化することにデメリットはないのか？
スポーツとナショナリズム	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツにおいてナショナリズムが高まるのはなぜか？ ・スポーツにおけるナショナリズムが野蛮化するのとはなぜか？
	表現	特になし。
	作者	・筆者はスポーツナショナリズムを結局どうしたいのか？
	発展	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツでのナショナリズムが肯定的にとらえられるのはどのような時か？ ・スポーツは本当に文明化された戦争なのか？ ・そもそもスポーツがナショナリズムを高められるのか？ ・どのような政治・文化的な状況のもとでスポーツ・ナショナリズムがその姿を現しているのかを見極めた（教科書最後の一節）後はどうするのか？ ・プロ野球などに見られる、地元の球団を応援する風潮は何から生まれているのか？ ・スポーツにおけるナショナリズムが実際に戦争を激化させたことがあるのか？
病と科	内容	・霊的痛みとはなにか？

学		・科学が人間そのものを排除してしまうとは どういうことか？
	表現	特になし。
	作者	特になし。
	発展	<ul style="list-style-type: none"> ・医師に全てを委ねずに、自分の足で立つ力を持った人は幸せなのか？ ・筆者が医師を否定的にとらえていることについてどう考えるか？ ・医師のどこに問題を感じているのか？ ・筆者は医師に恨みでもあるのか？ ・科学の発展に限界はあるのか？ ・人間は科学とどのように向き合えばいいのか？ ・科学に依存するのは本当に悪いことなのか？
文系と理系の壁はあるか	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・文系・理系という色分けが無意味だと感じるのはなぜか？ ・「専門外の人間が口出しをしなさんな」という不文律が存在するのはなぜか？
	表現	特になし。
	作者	・筆者が批判したいのはなにか？
	発展	<ul style="list-style-type: none"> ・いままで文系と理系を分けていたのはなぜか？ ・文系と理系を分けることのメリットはなにか？ ・文系と理系が関係をもつようになったのはなぜか？ ・文系と理系の壁があるのとなないと、どちらがよいのか？ ・文系と理系は本当に壁があるのか？ ・その分野の専門家ではない人が、その分野の専門書を出す意味はなにか？ ・科学技術に関する選択の最終的な責任者はだれか？ ・文系と理系を分ける必要はあるのか？ ・文系と理系がわかれているのはなぜか？ ・高校生の時に文理を分ける意義はなにか？ ・専門外の人が書いた科学の本は社会にどのような影響を与えるのか？ ・専門家だけで物事を進めた場合に生じる問題はなにか？
ホンモノのお	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ニセモノとホンモノの違いとは何か？ ・本文章中における「逆説」の意味はどのよ

カネの作り方		うなものか？ ・「ホンモノの形而上学の哀れな犠牲者」とは どういうことか？
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・「ホンモノのおカネ」はなぜカタカナなのか ・「ホンモノ」がカタカナなのはなぜか？ ・「ホンモノ」「ニセ」「おカネ」が読みにくくなるのに、カタカナ表記であるのはなぜか？ ・「ホンモノ」と「おカネ」が漢字表記でないのはなぜか？ ・「ニセ」は「偽せ」とかけているが、「ホンモノ」がカタカナ表記なのはなぜか？ ・読みにくくなるのに「ホンモノのおカネ」を多用するのはなぜか？
	作者	<ul style="list-style-type: none"> ・本文章で筆者が伝えたいこととはなにか？ ・筆者の主張はなにか？
	発展	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり手形はどの段階でお札というおカネになったのか？ ・現在、預かり手形が代わりとして働かないのは、なぜか？ ・結局、一般人にはホンモノのお金は作れないのか？ ・物事の価値を決めるのは何か？ ・かりにニセモノの手形を作ったら、それはニセ金と同類のものか？ ・仮想通貨はホンモノのおカネと言えるのか？ ・仮想通貨がホンモノのおカネと認識されるまで、筆者の理論は適用されるのか？
忘れられる権利	内容	特になし。
	表現	特になし。
	作者	・筆者の立場はどのようなものか？
	発展	<ul style="list-style-type: none"> ・忘れられる権利が生み出す問題点はなにか？ ・プライバシーはどの程度保護されるべきか？ ・完全に忘れることは可能なのか？ ・忘れられる権利に関するアメリカと欧米の対立は解消しうるか（両立しうるか）？ ・忘れられる権利に関するアメリカと欧米の差異はなぜ生じたのか？ ・現在の日本は忘れられる権利についてどの

		ような立場なのか？ ・現在の日本はE U 寄りか, アメリカ寄りか？ ・忘れられる権利に意味はあるのか？ ・ネット上の記事の削除はできるのか？ ・バイトテロなど, やらかした人の情報を削除すべきか？ ・歴史的背景によって作られている哲学は, 今後も変わることはないのか？ ・尊厳と自由の両立はできないのか？ ・プライバシー保護の二重の基準があるとうなるのか (悪いのか) ？ ・日本では尊厳と自由のどちらが重視されているのか？
ミロのヴィーナス	内容	・失われているものが両腕でなければならぬ理由とは？ ・ヴィーナス像にとって重要なのは, 腕がないことか？偶然失ったことか？ ・「特殊から普遍への跳躍」とはどういうことか？ ・「量の変化」と「質の変化」とはどういうことか？ ・「芸術というものの名において」とはどういうことか？
	表現	特になし。
	作者	・筆者がこんなにヴィーナス像を賞賛するのはなぜか？
	発展	・ヴィーナス像はもともと腕がなかったのでは？ ・もし両腕が存在していたら, ヴィーナス像はどのように評価されていたか？

【古文教材】

教材名	分類	生徒の作ったはじめの問い
すさまじきものの (枕草子)	内容	・下衆男の役割はどのようなものか？ ・古くから仕えていた者たちが「揺るぎあきたる」のはなぜか？
	表現	・最初の2行 (除目のエピソードの前) があるのはどのような意味があるのか？ ・この文章に下衆男は必要か？
	作者	特になし。
	発展	特になし。
村上の	内容	・蛙はどこから出てきたのか？

先帝 (枕草子)		・蛙が焼けたのはなぜか？ ・和歌の意味はなに？
	表現	・蛙が火櫃に飛び込んで焼けた様子を, 海の歌で表現したのはなぜか？
	作者	・清少納言が「村上の先帝」の章段にこめた思いはなににか？ ・自分の話でもないのに, 清少納言がこの話を書き付けたのはなぜか？
	発展	特になし。
桐壺 (源氏物語)	内容	・桐壺更衣は帝のことをどう思っていたか？ ・桐壺更衣の美しさはどれほどだったのか？ ・光る君が帝に好かれたのはなぜか？ ・帝が隠すことなく桐壺更衣を寵愛するのはなぜか？
	表現	・桐壺更衣の親の説明はなぜ必要か？ ・最後の一文 (「御局は桐壺なり」) があるのはなぜか？
	作者	特になし。
	発展	特になし。
若紫 (源氏物語)	内容	・僧都は何をしに來たのか？ ・僧都が光源氏を持ち上げるのはなぜか？ ・僧都は光源氏がのぞいていることに気づいていたのか？ ・光源氏を見ると, 寿命がのびる気がするの はなぜか？
	表現	・「若草」と「露」は何を比喻したものか？ ・若紫が「若草」, 尼が「露」にたとえられているのはなぜか？
	作者	特になし。
	発展	特になし。
袴垂 (宇治拾遺物語)	内容	・袴垂が逃げ出さずに保昌を追い続けたのはなぜか？ ・せっかく衣をもらったのに, その後捕まるようなことをしたのはなぜか？ ・袴垂が更生していないのはなぜか？ ・捕まったときに保昌の話をしたのはなぜか？ ・保昌が夜一人で笛を吹いて歩いていたのはなぜか？ ・保昌が袴垂に優しく接するのはなぜか？
	表現	特になし。
	作者	特になし。
	発展	特になし。

安元の 大火 (方丈 記)	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・火にまぐれて死ぬとはどういうことか？ ・「侍り」の意味は？ ・「あぢきなし」（最後の文中）なのはなぜか？
	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・最後の段落で客観的な表現にする効果はどのようなものか？ ・最後の一文の意味は何か？ ・最後の段落の意味はどのようなものか？
	作者	<ul style="list-style-type: none"> ・日記に火事のことを書こうとしたのはなぜか？ ・鴨長明は火事の時何をしていたのか？ ・実際に体験したことを記したのか、見聞したことを記したのか？ ・鴨長明自身はこの場にいたのか？
	発展	特になし。
初冠 (伊勢 物語)	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・いとなまめいたる女は歌を理解できるのか？ ・いとなまめいたる女は何者か？ ・男は狩衣の裾をどうやって切ったのか？ ・男が狩衣の裾を破ったのはなぜか？ ・狩衣を破ってまで歌を伝えたいのはなぜか？
	表現	特になし。
	作者	特になし。
	発展	特になし。
通ひ路 の関守 (伊勢 物語)	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・女が心を痛めたのはなぜか？ ・主が男を許したのはなぜか？ ・男はどんな身分の人だったのか？
	表現	・最後の一文があるのはなぜか？
	作者	特になし。
	発展	特になし。
弓争ひ (大 鏡)	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「やすからずおぼしなりて」の主語はだれか？ ・「思ひかけずあやし」だったのはなぜか？ ・立場が低い道長を自分より前に立てたのはなぜか？ ・帥殿が弓を射るときに臆したのはなぜか？ ・中の関白が色青くなったのはなぜか？ ・父が「何か射る、な射そ」と止めたのは、なぜか？ ・「ことさめにけり」なのはなぜか？ ・「こと苦うなりぬ」なのはなぜか？
	表現	特になし。

姨捨 (大和 物語)	作者	特になし。
	発展	特になし。
	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・おばが妻の悪口に言い返さなかったのはなぜか？ ・「やや」とはどういう意味か？ ・男が「月のいと明かき夜」を選んだのはなぜか？ ・男がおばを捨てたのはなぜか？ ・男が「いらへもせで」帰ったのはなぜか？ ・和歌はどういう意味か？ ・男が山に戻ったのはなぜか？ ・男がおばを連れ帰ったのはなぜか？
	表現	特になし。
	作者	特になし。
	発展	・その後の家族関係はどうなったのか？

【漢文教材（漢詩を含む）】

教材名	分類	生徒の作ったはじめの問い
性善 (孟 子)	内容	<ul style="list-style-type: none"> ・孟子の主張は何か？ ・告子の主張は何か？ ・孟子と告子の違いは何か？ ・水が下ることを善とするのはなぜか？
	表現	・人性を水でたとえたのはなぜか？
	作者	特になし。
	発展	<ul style="list-style-type: none"> ・人性を水以外のものでたとえたら何か？ ・2人はこのやりとりの後、どうしたのか？
漢詩 (李白 ・王維 ・白居 易)	内容	〈王維〉 <ul style="list-style-type: none"> ・9月9日に意味はあるのか？ ・「一人」は誰を指すのか？ 〈白居易〉 <ul style="list-style-type: none"> ・「孤灯此夜情」はどういう意味か？ ・弟妹は旅に出ているのか？ ・病気になっているのは誰か？
	表現	特になし。
	作者	〈李白〉 <ul style="list-style-type: none"> ・李白が山に一人でいるのはなぜか？ ・李白は敬亭山のどこにいるのか？ ・敬亭山を嫌いにしないのはなぜか？ 〈王維〉 <ul style="list-style-type: none"> ・王維は家族で行う行事をどのように思っていたのか？
	発展	特になし。

黔之驢 (柳宗元)	内容	・驢馬を山に放つほど用いようがなかったのはなぜか？ ・虎が喜んだのはなぜか？
	表現	特になし。
	作者	・作者が伝えたかったことはなにか？
	発展	・この話の教訓は何か？
売油翁 (歐陽脩)	内容	・康肅がすぐキレたのはなぜか？ ・翁は油を汲むだけでなぜ弓の腕が分かるのか？ ・康肅が老人を笑って許したのはなぜか？ ・康肅が笑うのはなぜか？
	表現	特になし。
	作者	特になし。
	発展	特になし。
鼓腹撃壤 (十八史略)	内容	・50年も治めていて、今更「自分が適任なのか」と不安になったのはなぜか？ ・役人に訊いてもわからないのはなぜか？ ・誰に訊いても分からないからといって、町中に出かけたのはなぜか？ ・童謡の意味は何か？ ・老人の言葉から学んだことはなにか？ ・「帝力何有於我哉」を聞いて堯はどう思ったか？
	表現	・堯の素晴らしさを天や雲にたとえるのはなぜか？ ・最後の一文（「帝力何有於我哉」）が反語なのはなぜか？
	作者	特になし。
	発展	特になし。
鴻門之会・四面楚歌 ・項王の最期 (史記)	内容	・曹無傷の裏切りはいつばれたのか？ ・范増が項王に青二才と言ったのはなぜか？ ・四面楚歌とはどういう意味か？ ・劉邦（沛公）は誰に楚歌を歌わせたのか？ ・項王の詩の意味は？ ・詩には項王のどのような心情がこめられているのか？ ・項王と側近が泣いたのはなぜか？ ・項王が笑うのはなぜか？ ・呂馬童が項王をすぐ攻撃しなかったのはなぜか？
	表現	・刀俎と魚肉は何を比喻しているのか？ ・魚肉にたとえたのはなぜか？
	作者	特になし。
	発展	

発展	・虞と駘のその後は？ ・張良はこの後どうなったのか？
----	-------------------------------

（４）分析

【生徒の活動の様子】

私の見とりでは、はじめの問い作りの活動にも、その後の問いの解決の活動にも、生徒は能動的に取り組んでいた。研究授業等では参観の先生方から、生徒が能動的に学習に取り組んでいると評価をいただいている。はじめの問い作りの活動は、私が育成を目指している学習者像の実現に効果的だと評価している。なお、3月に休校となったため、問い作りに関するアンケートはできなかった。

【文学教材の問い】

- ・文学教材は内容面の問いが多い。特に登場人物に注目した問いが多い。
- ・作者面の問いの場合、「作者は読者に何を考えさせようとしたのか？」という、作者の読者への働きかけを考えさせる問いが多い。
- ・文章から発展した問いの場合、作品の魅力を考えさせる問いが多い。
- ・「永訣の朝」や「夏の花」は、方言・ローマ字・カタカナの表現が用いられており、表現に注目しやすい作品である。このような場合、表現面への問いが多い。

【説明的文章教材の問い】

- ・説明的文章教材は文章から発展した問いが多い。
- ①現実世界にあてはめてみる問い（仮想通貨は～ホンモノのおカネか？ 分けることのメリットは何か？）、②筆者の問題提起や主張はそもそも適当なのかと批判的にとらえる問い（ヴィーナス像はもともと腕がなかったのでは？）、③他への応用の問い（名付けされていない事象を私たちはどう認識しているのか？）に大別できる。
- ・「ホンモノのおカネの作り方」など、表現面に工夫がなされ、その工夫に気づきやすい文章の場合、表現面への問いが多い。

- ・抽象度の高い内容の場合、内容面への問いとしてキーワードや難しい語に関する課題が多くなる。

【古文教材の問い】

- ・古文教材は内容面への問いが多い。登場人物がいる場合は、人物に注目した問いが多い。
- ・表現面への問いの場合、「本来はなくても良いかもしれないのに、なぜこの段落があるのか」という

反実仮想の思考法を用いているものが多い。

・表現面への問いについて、「なぜこの語が選ばれたのか？」という語レベルのものではなく、「なぜこの段が加わっているのか？」という段落レベルのものが多い。

・文章から発展した問いの場合、作品世界のその後を考えさせる問いがある。

【漢文教材の問い】

・漢文教材は漢詩を含めて内容面への問いが多い。登場人物がいる場合は、人物に注目した問いが多い。

・文章から発展した問いの場合、作品世界のその後を考えさせる問いがある。

・漢詩は作者面への問いが多い。ただしこれは、作者自身が登場人物であると生徒が読んでいるためであり、内容面への問いとも考えることができる。

・漢詩は現代文の詩歌とは違って、表現面への問いはない。

（５）考察

はじめの問い作りの学習活動は、教材と関係を築き、読みの構えを作るという点で、生徒を能動的にする。また、自分たちの問いたい問いなのだから、解決の活動にも生徒は能動的に取り組む。

生徒は基本的には文章の内容面に注目している。特に登場人物がいる場合、人物に注目して読む。そのため内容面については、指導者があえて発問しなくとも、生徒の作った問い中心で授業ができる可能性が高い。

表現上の工夫が明確な場合、生徒は表現面にも注目する。この場合、文学・詩歌・説明的文章・古典といった文章の種類は関係ない。表現の工夫に気づきにくい教材であえて表現面に注目させようとするなら、指導者側の働きかけが必要になりうる。

生徒は文章の背後に文章を書いた作者・筆者を想像しつつ読んでいる。また説明的文章教材の場合、文章の内容を現実世界や自分と関連づけて読んでいく。この点は文章を自分に宛てられたもの、自分と関係あるものとして読んでいくととらえることができる。

授業作りで大切にしたいのは、生徒の考えたいことや活動したいことを中心に据えつつ、そこに指導者の指導・支援を交えていくことである。はじめの問いの分析をもとに、指導者の指導・支援のやり方として具体的に三点あげたい。①内容面、特に人物

の登場する教材文については、生徒の問いを中心に据えて授業を行いたい。問いの数が足りない場合、追加で生徒が作ることも可能である。②表現面に注目していない場合、「～～段落はなくても大きな意味は変わらないのに、なぜあるのかな？」「□□という語は○○という語でもいいのに、なぜ□□なのかな？」「人物のその後を書いても良いのに、なぜここで作者は作品を終えたのかな？」など反実仮想の形で指導者が問いかけてみる。③生徒の生活に縁遠いものの場合や生徒が自分と関係づけていない場合、「この文章を書いた人はあなたに何をしてほしいのかな？」「この文章の内容は現実世界でも通用する？」「現実世界にあてはめるときに、どのような長短が発生する？」「そもそもこの筆者の問題提起って重要？」と指導者が問いかけてみる。

４、論点と展望

これまで、私の実践について本校の先生をはじめ多くの方からご意見をいただいた。それらをふまえて、生徒の問いをいかす授業について今後考えるべき論点と、今後の展望を述べる。

論点① 作られなかった問い

指導者としては「○○について問いを作ってほしい」と思っているが、生徒が問いを作らない場合がある。このような場合、誰が問うのかという論点が生じる。生徒の作った問いの解決が中心の授業で、指導者の一方的な発問という形になれば、生徒の能動性を損ねるおそれがある。

論点② 表現面への問い

生徒は内容面について多くの問いを作る。一方で表現面への注目は弱い。国語の授業では内容面より、表現面に注目して問いを作ることが重要なのではないかという論点がある。特に表現の工夫が明確でない教材文の場合、生徒は表現面にあまり目を向けない。

論点③ 教材文から離れた問い

生徒の作る問いが教材文の内容と無関係ではないにしろ、関係の薄い場合がある。いわゆる大きな問いである。このような問いを国語の授業でとりあげるべきかどうかという論点がある。特に単元終結時のまとめの問いを作る場合に多く生じる。

論点④ 正答のない問い

生徒の作る問いの多くは、唯一絶対の正答のない問いである。正答のない問いを授業で扱うべきかと

いう論点がある。生徒が正答を求めるなど、正答のない問いを扱いにくい雰囲気の国語教室もある。

論点⑤ 問いの評価の基準

生徒の作る問いを評価できるのか、特にその基準をつくるべきなのかどうかという論点がある。学習活動である以上、評価の対象とすべきであるし、そのための基準があるべきである。しかし、評価の基準は多くの場合生徒にも知らせるので、生徒の問い作りの活動が指導者の基準にあわせるばかりの学習活動になるおそれがある。

論点⑥ 個性的な読み

問いを解決するために教材文を読み、自分なりの読みをつくりあげる。この自分なりの読みが、一般的な読みではない、個性的なものでよいのかどうかという論点である。問いを解決しようとして、生徒は想像や推理を働かせて教材文を解釈する。特に生徒が教材文を自分のこととして引き受けつつ読んでいる場合、自分の価値観や人生経験が解釈に強く入り込むので、その読みはより個性的なものになる。能動的な読みは個性的なものになりがちである。しかし、それは誤読ではないのかということである。

展望 学習者研究の深まりが能動的な学習の実現へ

生徒の感想や問いを分析して、単元や授業の構想を改めること。さらに、その経験を重ねること。このことが教材研究、特に学習者研究の深まりにつながると実感している。教材研究で難しいのは、自分が教材文をどう読み、どう扱うかではなく、生徒がどう読み、何をしたいのかを想定することだと思う。実際に生徒の書いたものを分析することが学習者研究の深まりにつながる。さらに、生徒を明確に位置づけた授業作りにつながる。

問い作りの学習活動は教材と関係を築き、読みの構えを作る点で、生徒を能動的にする活動である。それに加えて、指導者は生徒の問いを分析し、生徒を明確に位置づけた授業作りをする。生徒の問い作りと指導者の問いの分析の双方が合わさることで、生徒の能動的な学習活動を実現することができる。

教材文の研究に没頭すればするほど、指導者が能動的になる授業づくりを行ってしまうおそれがある。教材文の研究に加えて、学習者の研究を取り入れた教材研究、授業構想が大切だと考えている。

注

注1、本校ではSSHの活動として、高校二・三年生

で課題研究の時間を設けている。自分たちで問題を設定し、調査・実験を行って、考察を行う。広島大学附属高等学校2022は、この課題研究の各段階で重要な活動（ファクター）を動詞の形でまとめている。初期段階で重要なのは「疑問を持つ」「興味を持つ」「悩む」など対象に問題意識を持つ力であり、進める段階で重要になるのは「計画する」「想定する」「やってみる」など対象に働きかける能動的活動である。本校では、このようなファクターを、教科の授業作りにおいても意識することが教科授業の活性化につながると考えている。

注2、本校の国語科が育成をめざしている学習者像は「テキストの表現を言語事項や背景を踏まえて解釈し、既存の知識、実生活での体験、読書等の追体験と結びつけて考えている」「自己の考えを言葉で表現し、他者と交流することで多様な視点を得て柔軟に考えようとしている」「自己の学びを振り返り、次なる課題を見出し解決しようとする意欲を持つ」学習者である。ここには、知識は与えられるものではなく、他の人と協同しつつ、能動的・主体的に作り上げるものだという知識観・学習観がある。

注3、2019年度の使用教科書は、現代文が三省堂の『高等学校 現代文 B 改訂版』、古典が第一学習社の『高等学校 改訂版 古典 B 古文編』と『高等学校 改訂版 古典 B 漢文編』である。

注4、重永2021は、中学2年生を対象に「走れメロス」を教材にして行った教育研究大会の授業の報告である。この実践では、はじめの問い作りに加えて、単元終結時にまとめの問い作りに挑戦した。さらに問いを読みあつた後、まとめの感想文を書いた。

参考・引用文献

・重永和馬，2021，「「走れメロス」を読む 一問い作りを中心にした実践―」『国語科研究紀要 第52号』，広島大学附属中・高等学校，pp. 29-37。

（本校HP「授業実践事例」の「2020年度教育研究大会」もご参照のこと）

・広島大学附属高等学校，2022，「課題研究指導のための「広大メソッド」」，広島大学附属高等学校。（本校HPの「スーパーサイエンスハイスクール」の「課題研究指導のための「広大メソッド」」もご参照のこと）